



焼けただれた被服



平和を願う鐘



「世界が平和になるために」

～「広島平和記念式典派遣事業」報告会～

派遣団：中道結愛さん（追分中3年）・藤井風羽さん（早来中3年）
 渡辺ひかりさん（追分小6年）・鈴木涼斗くん（安平小6年）
 藤井稜介くん（遠浅小6年）・門田涼楓さん（早来小6年）
 引率：熊谷太一さん（安平町教育委員会社会教育グループ）



平原ガイドとの碑めぐり



8月5日から7日にかけて、安平町の小中学生6名が、広島平和記念式典派遣事業に参加しました。

広島市で開催された平和記念式典に参列したほか、安平町を発つときに託された千羽鶴を原爆供養塔折り鶴奉納庫に納め、広島平和記念資料館などを巡り、被爆者とふれあい戦争と原爆について学びました。

8月29日、町民センターで行われた報告会「平和への誓い」で発表した派遣団の決意を紹介します。（敬称略）

戦争をしていた時代と

現代との違い

追分中学校3年 中道 結愛

戦争していた時代も現代も変化していかないことを塩治さんに伺うと、人の優しさ、そして心だといいます。人々がお互いを思いやり助け合う。今後もずっと大切にしていきたいと話していました。

塩治さんや平原さんなど広島市内の方々の話しを聞き、感じたことが大きく二つあります。

一つは、世の中のことにもっと興味を持ち、考えること。それを継続することで変化に気づき、視野が広がるのではないかと思います。二つ目は、人と人とのつながりです。互いを思いやり助け合うことは、いつの時代も変わらないことです。

これらの事から私は、周りのことにもっと興味を持つ。そして、人とのつながり、助け合うということ。広島での学習を通して学んだ様々なことを、これからの生活でも活かしていきたいです。

戦争の恐ろしさ、

そして、原爆について

早来中学校3年 藤井 風羽

塩治さんは、戦争がどのように悲惨で苦しい環境だったのかを話してくださいました。

毎日のように、泊まる所を変えて暮らした事、家族が亡くなった事、本当にたくさんの事を教えてくれました。そして今、話しをするのが苦手だった塩治さんは、語り部になり、多くの人達に伝えていくのです。私は、塩治さんの話しを聞いて、戦争の恐ろしさだけでなく、命の大切さや何事も勇気を持って行う事を学びました。本当に素晴らしい人だと思いました。そして、私もこのようなすばらしい人になれるよう頑張ろうと思います。ガイドをしてくれた平原さんは、建物や碑めぐりの時に、当時の状況や平原さん自身が思っていることなどを話してくれました。

広島に対する皆さんの愛情、これからも戦争してはいけないという思いを学び、それらを、私は今後の生活に生かし伝えていきたいです。

※紙面の都合により、文章を割愛しています。